

令和4年6月24日

公立八鹿病院組合

管理者 富 勝 治 様

監査委員 今 井 久 雄

監査委員 藤 井 昌 彦

### 令和3年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算審査意見書

地方公営企業法第30条第2項の規定により、令和3年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算につき、審査の結果、次のとおり意見を提出する。

#### 第1 審査の概要

##### 1 審査の期間

令和4年6月6日から24日まで

##### 2 審査の対象

令和3年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算

##### 3 審査の方法

令和3年度公立八鹿病院組合病院事業会計決算の審査にあたっては、都市監査基準に準拠して、管理者から提出された決算書について、決算報告書、財務諸表、決算附属書類並びに事業報告書を基に審査を実施した。関係会計諸帳票及び預金残高証明書等の証拠書類と内容の照合点検を行い、財政状態及び経営状況の実態を把握した上で各種資料により、過去数年の経営状況等の推移、他病院や全国平均との比較、並びに経営分析指標に基づく検討や分析、実査を行い、事業の効率執行などを主眼に決算審査を実施した。

##### 4 審査の結果

決算書及び決算附属書類等は、法令に準拠して作成され、当監査委員は意見表明の基礎となる適切な監査証拠を入手したと判断した。計数は正確であり、経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認められた。

## 第2 総 説

### 1 事業量

病床数は、422 床(一般 380 床〔八鹿 338 床、村岡 42 床〕、療養 35 床〔八鹿 35 床〕、結核 7 床〔八鹿 7 床〕)である。令和3年度の年間入院患者総数は、98,005 人(前年度 104,754 人)で 6,749 人(対前年度 6.4%)の減少。内訳は八鹿病院で 6,527 人減、村岡病院で 222 人減となっている。病床利用率は八鹿病院が 64.9%(前年度 69.6%)、村岡病院が 52.3%(前年度 53.8%)と減少。全体で 63.6%(前年度 68.0%)と減少した。年間外来患者総数は、126,761 人(前年度 128,187 人)で 1,426 人(1.1%)減少しており、内訳は八鹿病院で 1,064 人の減、村岡病院は 362 人の減となっている。

八鹿病院については、コロナ病床確保のため、一般病床を削減したこと及びコロナ禍による外来患者数の減少などが要因となっている。

### 2 経営状況

#### (1) 八鹿・村岡病院事業の収益的収支の状況

令和3年度の病院事業収益は、7,833,380 千円(前年度 7,696,943 千円)で、対前年 1.8%の増加、病院事業費用は、7,772,192 千円(前年度 8,008,314 千円)で、対前年 2.9%減少し、医業収支比率は 84.8%(前年度 84.9%)と 0.1 ポイント悪化し、経常収支比率は、100.8%(前年度 96.1%)で 4.7 ポイント改善した。

病院事業収支は 61,188 千円(前年度 純損失 311,372 千円)の純利益を計上し、前年度より 372,560 千円改善し、平成 17 年度以来 16 年ぶりに黒字となった。(組合全体の収支では平成 15 年度以来 18 年ぶりの黒字となる。)

病院別では、八鹿病院が純利益 13,471 千円(前年度 純損失 329,267 千円)と改善し、村岡病院は純利益 47,717 千円(前年度 純利益 17,895 千円)と前年度に比べ 29,822 千円の増益となり令和元年度から3年連続の黒字となった。

医業収益は 6,334,405 千円(前年度 6,410,769 千円)で 76,364 千円(1.2%)の減収となっている。主なものは入院収益で 126,767 千円(2.9%)減収し、外来収益は 12,038 千円(0.8%)の増収となっている。

医業費用は、7,471,414 千円(前年度 7,551,767 千円)で対前年 80,353 千円(1.1%)減少している。費用減少した主なものは、給与費 76,715 千円、資産減耗費 64,051 千円、経費 52,458 千円、材料費 14,614 千円の減などであり、費用増加した主なものは減価償却費 120,841 千円の増である。

八鹿病院では、入院患者一人一日当たりの収益が 44,675 円(対前年 1,710 円増額)、外

来患者一人一日当たりの収益は 11,999 円(対前年 216 円増額)となった。村岡病院では、入院患者一人一日当たりの収益が 31,778 円(対前年 840 円増額)、外来患者一人一日当たりの収益は 17,765 円(対前年 555 円増額)となっている。

#### ① 職員数及び給与費の状況

令和3年度末の組合全体の職員数は、合計 766 人で、前年度に比べ8人の減員となっている。「職種別給与に関する調べ」における職員一人当りの平均給与月額 は 489,895 円で、全国平均の額 590,979 円を 101,084 円下回っている。八鹿及び村岡病院の給与費は、令和3年度は 4,595,752 千円(前年度 4,672,467 千円)で 76,715 千円減少している。

#### ② 医師数の状況

医師数は平成 18 年度 58 人(八鹿病院 54 人、村岡病院4人)以来、減少し続け平成 23 年度の 38 人を底に、令和2年度に 50 人まで増員したものの令和3年度は3人減員し 47 人(八鹿病院 44 人、村岡病院 3 人)となっている。

#### ③ 病院事業の材料費等の状況

材料費は、957,582 千円(前年度 972,196 千円)で 14,614 千円減額し、医業収益に対する割合は 15.1%(前年度 15.2%)と対前年 0.1 ポイント減少している。

経費については 985,941 千円(前年度 1,038,399 千円)と前年度に比べ 52,458 千円減少した。内訳は委託料 541,105 千円(八鹿病院 492,961 千円、村岡病院 48,144 千円(前年度 572,523 千円))、光熱水費 123,442 千円(八鹿病院 113,454 千円、村岡病院 9,988 千円(前年度 118,190 千円))、修繕費 42,084 千円(八鹿病院 36,016 千円、村岡病院 6,068 千円(前年度 77,548 千円))などが主なものである。

#### (2) むらおか訪問看護ステーション

一日平均利用者数は、21.0 人(前年度 19.5 人)と 1.5 人の増となった。療養料収益は 50,854 千円(前年度 48,761 千円)と 2,093 千円(4.3%)の増収となっている。純利益は 13,299 千円(前年度 9,340 千円)と 3,959 千円増額し、引き続き黒字を計上している。

#### (3) 看護専門学校

総収益 128,595 千円(前年度 126,346 千円)、総費用 155,772 千円(前年度 157,035 千円)で純損失は 27,177 千円(前年度 純損失 30,689 千円)となり、前年度に比べ 3,512 千円改

善している。内訳は、収益では事業収益 30,148 千円(前年度 29,133 千円)で総収益に対する構成割合は 23.4%(前年度 23.1%)、事業外収益 98,447 千円(前年度 96,843 千円)で構成割合は 76.6%(前年度 76.6%)となっている。看護学校事業という特殊性により、補助金 17,738 千円(前年度 17,238 千円)、負担金交付金 48,337 千円(前年度 44,965 千円)と合わせて 66,075 千円(前年度 62,203 千円)で構成割合 51.4%(前年度 49.2%)と外部資金への依存度が高い。

事業費用は 148,263 千円(前年度 144,806 千円)であり、主な内訳は給与費 102,696 千円(前年度 98,429 千円)で総費用に対する構成割合は 65.9%(前年度 62.7%)、経費 21,669 千円(前年度 22,159 千円)で構成割合は 13.9%(前年度 14.1%)、減価償却費 22,520 千円(前年度 22,031 千円)で構成割合は 14.5%(前年度 14.0%)となっている。事業外費用は、7,438 千円(前年度 11,649 千円)で、内訳の主なものは支払利息 5,137 千円(前年度 9,234 千円)で 3.3%(前年度 5.9%)の構成割合となっている。

#### (4) 福祉センターの状況

##### ① 老人保健施設

年間利用者数は施設サービス、短期入所療養介護、重症心身障害児(者)短期入所を合わせた入所者数 33,138 人(前年度 32,721 人)で対前年 417 人増加し、通所者数 11,130 人(前年度 11,752 人)で対前年 622 人減少している。事業収益は 600,323 千円(前年度 604,362 千円)と 4,039 千円の減収となっている。総収益 623,579 千円(前年度 635,024 千円)、総費用 645,884 千円(前年度 660,477 千円)で 22,305 千円の純損失となったものの、前年度純損失 25,453 千円から 3,148 千円改善した。総収益に対する構成割合は、事業収益 600,323 千円(前年度 604,362 千円)で 96.3%(前年度 95.2%)、事業外収益 22,949 千円(前年度 25,077 千円)で 3.7%(前年度 3.9%)となった。

その内訳は、入所収益 451,939 千円(前年度 450,435 千円)で構成割合は 72.5%(前年度 70.9%)、通所収益 118,989 千円(前年度 127,819 千円)、構成割合は 19.1%(前年度 20.1%)が主なもので、事業外収益については、負担金交付金が 2,714 千円(前年度 4,605 千円)で、構成割合は 0.4%(前年度 0.7%)となっている。

費用では事業費用 628,869 千円(前年度 634,922 千円)で総費用に対する構成割合は 97.4%(前年度 96.1%)。事業外費用は 16,367 千円(前年度 18,870 千円)で、2.5%(前年度 2.9%)となっている。

事業費用の内訳は、給与費 473,272 千円(前年度 486,053 千円)で構成割合は 73.3%(前年度 73.5%)、経費 120,125 千円(前年度 115,260 千円)、構成割合は 18.6%(前年度

17.5%)が主なもので、事業外費用の内訳は、雑損失 12,183 千円(前年度 11,840 千円)、構成割合は 1.9%(前年度 1.8%)と支払利息 4,184 千円(前年度 7,031 千円)、構成割合 0.6%(前年度 1.1%)となっている。

## ② 南但訪問看護センター

利用者数が対前年 53 人増加したことと令和3年度の改定により介護報酬が増額になったことなどから純利益は対前年 30,654 千円の増益となった。

総収益 372,208 千円(前年度 351,195 千円)、総費用 301,052 千円(前年度 310,693 千円)で純利益 71,156 千円(前年度 40,502 千円)となっている。内訳は、事業収益では療養料収益が 370,103 千円(前年度 346,326 千円)、総収益に対する構成割合は 99.5%(前年度 98.6%)とほぼ全額を占め、事業費用では給与費が 276,027 千円(前年度 281,054 千円)で、総費用に対する構成割合は 91.6%(前年度 90.6%)となっている。

## ③ 居宅介護支援事業所

年間プラン作成件数は 1,416 件(前年度 1,392 件)となっている。事業収支状況は、総収益 20,695 千円(前年度 19,747 千円)、総費用 29,400 千円(前年度 27,295 千円)で、8,705 千円(前年度 純損失 7,547 千円)の純損失となり、対前年 1,158 千円悪化した。事業収益では受託収益が 20,565 千円(前年度 19,215 千円)で総収益に対する構成割合は 99.4%(前年度 97.3%)、事業費用では給与費が 27,657 千円(前年度 25,857 千円)で総費用に対する構成割合は 94.1%(前年度 94.8%)となっている。

## (5) 資本的収支の状況

令和3年度の医療機器等整備事業は、主なものとして八鹿病院では、令和3年8月から眼科医師が常勤になったこと及び白内障手術が可能になったことから購入された眼科システム Claio、C-Note(19,030 千円)及び白内障手術装置(21,780 千円)の更新のほかに、一般撮影装置(29,315 千円)、プラズマガス滅菌器(13,530 千円)等の更新を行っている。

施設整備事業は、主なものとして八鹿病院では3階機械室チラー更新工事(41,800 千円)、サーバー室等エアコン更新工事(8,690 千円)、オペレーションコンソール更新工事(4,180 千円)を行っている。村岡病院ではヒートポンプユニット増設工事(8,470 千円)、看護学校では寄宿舍給湯ボイラー更新工事(2,827 千円)、老人保健施設では照明 LED 化工事(1,004 千円)を行っている。

資本的支出の総額は 1,198,540 千円(前年度 2,098,630 千円)で、その支出内訳は、企業

償還金 839,746 千円(前年度 799,850 千円)で構成割合は 70.1%(前年度 38.1%)、建設改良費 307,864 千円(前年度 1,253,960 千円)で構成割合は 25.7%(前年度 59.8%)、投資 50,930 千円(前年度 44,820 千円)で構成割合は 4.2%(前年度 2.1%)となっている。

これらに対する財源は、構成市町である養父市と香美町が負担する他会計繰入金 725,562 千円(前年度 1,117,477 千円)、企業債 278,100 千円(前年度 765,100 千円)、補助金 6,141 千円(前年度 20,252 円)、投資回収金 415,454 千円(前年度 14,517 千円)で、資本的収入の総額が 1,425,257 千円(前年度 1,918,006 千円)と資本的支出の総額を上回り、財源不足はなかった。

### 3 審査意見

令和3年度の収支については、組合全体で収入 9,029,503 千円(前年度 8,878,417 千円)、費用 8,942,048 千円(前年度 9,203,636 千円)で差し引き 87,455 千円(前年度△325,219 千円)と純利益を計上し、組合全体の決算としては平成 15 年度以来 18 年ぶりの黒字決算となった。

令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の流行拡大による影響が大きく、医業収益は新型コロナウイルス感染症患者の入院対応にかかる診療制限の影響等もあり 76,364 千円の減収となった。コロナ前の令和元年度と比べると 247,344 千円の減収となっている。

黒字化した主な理由は新型コロナウイルス対応等に係る補助金等が 250,497 千円増額になったことにあり、八鹿病院と村岡病院を合わせた収支は 372,559 千円改善した。

両病院の入院患者数は 98,005 人となり、前年度 104,754 人から 6,749 人(八鹿 6,527 人、村岡 222 人)減少した。外来患者数においては 126,761 人となり、前年度 128,187 人から 1,426 人(八鹿 1,064 人、村岡 362 人)減少している。

八鹿病院は、同規模の黒字公立病院の全国平均及び近隣の公立病院に比べ、外来患者数が少ない状況にある。村岡病院は、平成 30 年度に地域包括ケア病床を 21 床に増床したことなどにより、4 年連続で入院単価が 2 万 7 千円台から 3 万円台へ上昇している。

南但訪問看護センターは、コロナ禍の状況にあっても利用者数は対前年 53 人増加させ、収支は純利益 71,156 千円を計上し、対前年 30,654 千円の増益となっている。看護専門学校については、卒業生 17 人の内、当病院へ 6 人が就職しており、看護師確保に寄与している。また但馬地域の医療機関の看護師確保にも貢献している。

八鹿病院は、構成市町民のための地域中核病院として地域住民の期待が大変大きい。今後

も医療の安定供給のために、本体である病院の健全経営の維持が求められる。令和3年度においては組合全体で黒字決算となったものの、本業の医業収支については厳しい経営状況が続いている。今後も、構成市町はもちろん、周辺地域からの当病院の利用者増加にも注力し、経費削減にも留意して、さらなる改善に努められたい。

村岡病院は、医業収支では赤字であるものの、不採算地区病院にかかる構成市町からの繰入金も平成 28 年度と令和2年度に増額となり、事業収支では黒字を継続している。今後も、地域の医療ニーズを把握し引き続き地域の期待に応えていただきたい。

これらの期待に応えるためには地域住民の協力が必須である。現在はコロナ禍で2年間中止しているが、大変好評であった地域に出向いた健康講座の再開及び八鹿病院ニュース等による情報の発信により地域住民の理解と協力を得て、さらに地域に合った良質な医療を提供し、経営改革に尚一層の努力を望む。

むすびに、八鹿病院の医療従事者としての基本理念である「医の倫理を基本に、質の高い医療と優れたサービスをもって、住民の健康を守り、地域の発展に尽くす」および行動指針にある「患者中心の医療」、「思いやりのある医療サービスの提供」この理念を八鹿病院のみならず、組合全体においても大切にして事業の運営をしていただきたい。